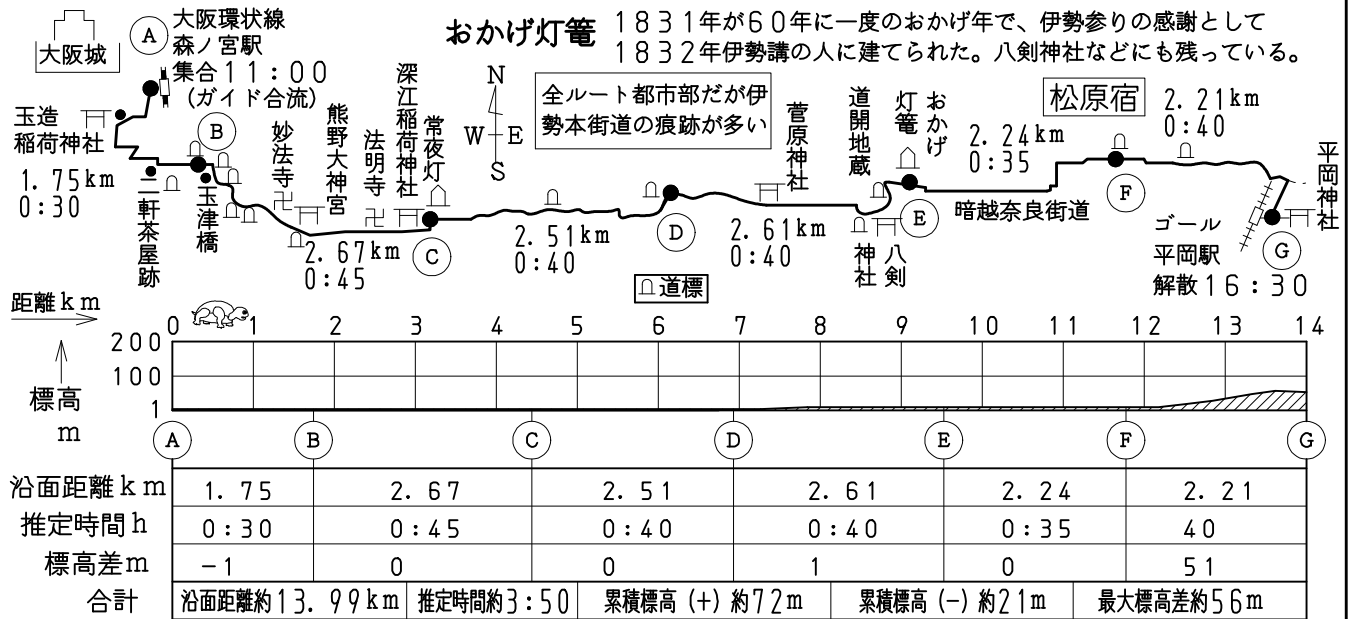


NO	IS01	級	ハイク初	東京・名古屋・大阪からのアクセスはパンフレットを参照下さい	
着型	「神意に叶う道」伊勢本街道分割完歩159km12日			宿泊の問い合わせ 東大阪市観光協会 TEL. 06-4309-3176	
企画	01玉造稻荷神社から松原宿・枚岡駅				
歩行距離	13.99km	歩行時間	3時間50分	休憩探勝	70分
予備時間	30分	全行程	5時間30分	最大標高差	56m



伊勢本街道

全国から伊勢を目指す道は多数あり、関東から伊勢を目指す道は参宮街道・伊勢街道で十返舎一九の『東海道中膝栗毛』などで紹介された。西国、関西からの道は、ほとんどが大和(奈良)を経由している。大和から伊勢にいたる道の最短コースが伊勢本街道で、奈良の猿渡池から三輪、初瀬、榛原と続きその後紀伊山地北部を東西に横断して伊勢に至る。街道のルーツをたどれば、倭姫命(やまとひめのみこと)が神宮を伊勢に祀る時通った道です。1980年NHK特集で北緯34度31分を東西一直線で貫く「太陽の道」が放映された。「神意に叶う道」として利用された伊勢神宮巡礼の道です。街道は最短コースゆえに険しい峠越えが続き、平坦地の多い北街道が参勤交代ルートになり利用者が減少した。明治になり鉄道や車道の普及で街道は取り残された。旧道には道標や常夜灯、旧旅籠の遺構、細くうねりながら伊勢を目指す古道が延々と続きます。旧道は伊勢本街道保存会で整備保存し、歴史遺産を未来に引き継ぐ活動をされています。

浪花講(大坂玉造から全国に広がった旅のシステム)

江戸時代安定期、伊勢神宮を目指す歩く旅が娯楽となり街道筋はにぎわった。しかし当時の旅は、ぼったくり宿やおいはぎなどが旅人を悩ませた。1804年に玉造稻荷神社で行商の松屋甚四郎は旅人に安全な旅を提供しようと浪花組を立上げ、1841年に浪花講と改めた。浪花講は①ぼったくり行為の禁止。②飯盛女を置かない。③宿内で賭博行為の禁止。などの規制を設け、目印で浪花講の看板をあげさせた。加盟宿リストや街道筋の名産品、旅先の情報を掲載した「浪花講定宿帳」を作成して旅人には所定の鑑札を渡し、宿泊の際に加盟宿に提示させました。安全で安心な旅を提供した「浪花講」は当時大変な人気となり京都、江戸などにも世話人を置き、全国へと広がった。このシステムは現在の旅行会社の先駆けとなりました。

玉造稻荷神社

紀元前12年垂仁天皇に祀られた。『日本書紀』に書かれた玉(先史、古代の日本における装飾品)のふるさと。日本人と稲のかかわり、商売繁盛の稻荷信仰。大阪城で生まれた豊臣家の貴公子豊臣秀頼公のゆかりの神社。お伊勢参りの大坂基点です。

二軒茶屋(石橋旧跡):暗越奈良街道を利用して奈良伊勢方面へ旅立つ出発点で、街道をはさんで「つる屋」と「ます屋」の2軒の茶屋があり、見送り人と別れを惜しんだ。

松原宿

江戸時代、大坂と奈良間の街道筋に唯一正式に置かれた宿場。単に旅籠だけでなく物資輸送の馬や馬方、人足も常備し、幕府役人の管理下で地元で運営された。ここに宿ができた理由は難所の暗越えを控え、吉田川と陸上交通の要所だったためです。大和屋以下14軒の旅籠と9軒の茶屋があった。明治時代になり宿場は廃止となり、鉄道の開通などでにぎわいを失った。

ロングトレイルコース設定について

友人で日本山岳ガイド協会認定ガイドの南元氏(桜井市)の助言と、玉造稻荷神社から資料を送付いただき設定しました。コースは玉造稻荷神社を基点に伊勢神宮まで東西にのびる一直線の一本の道を、石の道標やおかげ灯籠に導かれて旧道の痕跡にふれながら「神意に叶う道」を真摯に歩き通す計画です。ガイドは南元氏グループの予定です。